



海外経験

明治大学 政治経済学部 3年

五十嵐 貴大

私は現在、タイのシーナカリンウィロート大学で勉学に励んでいます。以前、インターンシップという形で二回、旅行で二回の計四回タイを訪れたことがあり活気付いた街、そしてタイ人の優しさに触れタイに一目惚れをしてしまいました。さらに将来のことを考えたとき、英語に加えて現地の言葉を話せ、タイに精通していることは強みになるのではと思い留学を決意しました。留学をして半年が経ち、私が想像していた以上の経験がこの留学では得られています。その経験のひとつを紹介させていただきます。

10ヶ月間の留学で前期の授業は9月まであり、それから1ヶ月間の休みに入りました。この休みを利用し、かねてからの望みだったヨーロッパへ一人旅に行こうと思い立ちました。タイへ留学しているのに、「なぜヨーロッパなのか」と疑問をもたれるかもしれませんが、東南アジアだけでなく世界を見て回りたい上、アジア人と違う人々と触れ合いたいからです。また日本、タイ、ヨーロッパの文化的、経済的比較をしたいと思ったからです。留学中にする意義はと問われれば、それは日本との繋がりだけでなく、各国の違いを容易に感じられることだと言えます。

今回の旅行ではスペイン、ポルトガル、フランス、イギリスを二週間鉄道だけで回りました。鉄道を選んだことは現地の人々との交流を深めることを重視していたためです。狭い座席に何十時間も座っているのは牢屋に入れられた囚人の気分でしたが、隣の人と会話をし、食事を共にすると時間はあっという間に過ぎ、他には代えられない非常に有意義な時間を過ごせました。また、ヨーロッパの町並みは日本やタイのそれとは似ても似つかぬもので、街全体が芸術そのもののようでとても感動したのを覚えています。しかし、ヨーロッパは大都市を除けばタイほどの活気は感じられず、人の優しさという点から見てもタイ人は抜きん出ているものを感じました。

この旅行でタイや日本では決して経験できないであろう重要な事を一つ学びました。それは「時には、心を鬼にしなければならない」ということです。ヨーロッパでは人の優しさに漬け込みお金を騙し取る犯罪が多発しています。そして私もその被害者の一人になってしまいました。警察と名乗る者とイタリア人旅行者と名乗る者からクレジットカードを騙し取られました。しかしこの経験は海外で生きていく際の一つの糧になると信じていますし、自分自身考えさせられることがあり、決して悪い経験ではなかったと言えます。学生生活の一人旅でしかできない貴重な時間を過ごせました。

最後に、これからタイへ留学を考えている後輩の皆さんへ。タイでの留学は私のようにヨーロッパ、そしてもちろん近隣諸国へ容易にいけるチャンスです。さらにタイは親日で有名であり、日本人が住みやすい国です。英語圏だけに絞るのではなく、ぜひ東南アジア、そしてタイに興味を持ち、ここでしかできない経験、勉強をする機会を得るために留学へ来てください。

【いからし たかひろ・政治経済学部協定留学生（交換留学生） 2013年5月よりバンコクのシーナカリンウィロート大学に留学中】